平安大将棋の Web アプリケーション

田中大翔[†]　井上悠斗[‡]　高見友幸[†‡]
† 大阪電気通信大学 総合情報学部　‡ 大阪電気通信大学大学院 総合情報学研究科

キーワード：平安大将棋，チェス，中国象棋，コンピュータ将棋，摩訶大将棋

1　はじめに

摩訶大将棋（駒数 96 枚：駒種 50）が現代将棋のルーツであり，将棋は次第に小型化の方向に発展したという説（摩訶大将棋起源説）がある。その説によれば，摩訶大将棋は，図１のように，大将棋（駒数 65 枚：駒種 29）を経て，平安大将棋（駒数 34 枚：駒種 13）へと発展する。将棋が小型化する過程では，駒数は 31 枚を単位として取り除かれていくという規則性がある。さらに，文献[1]で提起された仮説では，平安大将棋の段階で，駒はきっちり２分割されて，中国象棋（駒数 16 枚：駒種 7）の原型およびチェス（駒数 16 枚：駒種 6）の原型が成立したとされる。

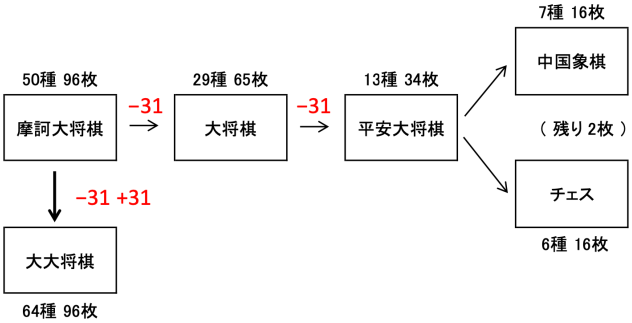

図１．摩訶大将棋から各種将棋への発展過程.

本研究では，復刻された平安大将棋のルールに，中国象棋とチェスにおける後世でのルール変更を取り入れた。そのような架空の将棋の遊戯性を調べるべく，将棋ＡＩを組み込んだ Web アプリケションの実装を試みた。

2　平安大将棋の駒の動き

成立当初の平安大将棋のルールの一部が，次のように変更されている。１）鉄将＝中国象棋の砲（本来は踊り駒としての飛車），２）金将２枚＝クイーン（本来は１枚だけがクイーンの動き），３）歩兵は初手のみ２マス動くことも可能，４）すべての歩兵の成りをクイーンの動きとする（本来は横行または仲人）。

3　対局の実際

図２は，後手△Ｉｅ歩兵と出た盤面である。Ｈｃのマスへの利きは，先手の飛龍，銀将，金将，鉄将の４駒に対し，後手は盲虎，金将，銅将の３駒である。したがって，次の手で▲Ｈｃ飛龍と飛べば，△同盲虎，▲同銀将，△同銅将，▲同鉄将として，鉄将の敵陣侵入が成功する。

平安大将棋には走り駒や踊り駒が多く，時間制限を課した対局では，単純な読み違いが頻発するため，将棋ＡＩが優位となる。現時点では，持ち時間３分，秒読み 30 秒１回というルールを採用している。

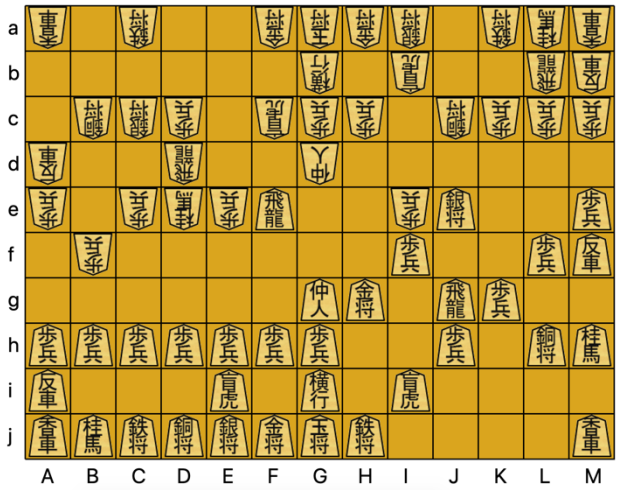

図２．平安大将棋の中盤の盤面例.

参考文献

[1] 高見友幸，摩訶大将棋起源説と初期平安京の復原 ～中国象棋とチェスの起源～，考古学ジャーナル 2021 年 11 月号，40-50，2021.